「整える」ことからはじめる学校環境づくり

OSAKA KYOIKU UNIVERSITY

大阪教育大学附属天王寺小学校　主幹教諭　和田秀昭

附属天王寺小学校では，学校教育改善の１つの視点として，「環境整備」に取組んできた。以前より，学校評価での課題として，「環境美化」問題が浮上していた。

その背景としては，

① **教職員，児童の環境への意識の低下**

② **時代変化に伴い，「使い勝手」が悪くなってきたこと**　があげられる。

新しい時代が求める学校教育環境を再整備するため，2018年度より，身近なこと，すぐにできることから，取組みを始めた。

本校における取組みの経緯

年度	学校の取組み	社会の出来事
2017	継続的課題としての環境整備問題の認知，業務改善の取組み開始	
2018	働き方改革，職員室再整備，防災教育の取組み（宿泊訓練等）開始，ホームページのブログ化，トイレ・手洗い場改修，花いっぱい運動	大阪北部地震，猛暑，台風21号
2019	「ぼうさい科」の設置，運動場の人工芝化，教科準備室の整理，多目的室の整備，ブロック塀撤去，生活指導部と安全環境部の分離	
2020	感染予防対策，保護者ボランティアによる除菌・清掃活動，学習園整備，爆破予告安全対策，樹木の剪定	コロナ禍

労働安全衛生法における5Sを学校教育に

1．整理（Seiri）
2．整頓（Seiton）
3．清掃（Seisou）
4．清潔（Seiketu）
5．躾　（Sitsuke）

事業場における労働管理についての法律であるが，学校教育にもおいても援用が可能であると考える。

研修の意

取組みの意図

1　**安全教育の向上**　危険箇所の改善，見通しの保持，安全点検の効率化

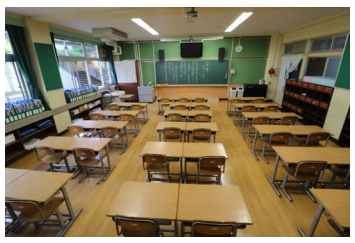
2　**生活指導の充実**　児童の認知能力・安全意識の向上，学習準備の促進

3　**業務改善の推進**　教具・物品の準備，片付け時間短縮，紛失防止

かつての学校には，草抜き，落ち葉集め，溝掃除等の業務を先輩の教員が若手教員に継承していく文化があった。時代変化に伴い，学校が解決すべき課題が増大し，教員の多忙化とともに，このような分野は，後手後手になってきた。子どもたちが学びやすい環境を考え，若手教員や附属実習に訪れる学生とともに取組み，継承していくことが重要である。協力してくださる保護者も増え，附属天王寺小学校に新しい学校文化が生まれつつある。

安全，安心で元気な学校

まず，教職員が動き，



整った教室で
新学年を迎える

学校園の整備

新型感染症拡大予防

教科準備室の整理

理科準備室を再整理し，STEAMルームとして，算数関係の教具やタブレット等のITC関連教具を配置しました。隣接教科は，教具も重複するので，準備が捗ります。

児童の声

- 先生方がいつもがんばってくれていて，うれしいです。
- お花を植えたり，野菜を育てたりするのは，楽しい。
- みんなと一緒に活動するのが，だいすきです。
- これからも新しいことをいっぱいしたいです。

そして，子どもとともに，

道徳科や生活科，
家庭科と関連させ，
日常的に
取組んでいます。

お道具箱の整理

栽培活動

自分たちにもできることを

減らす　必要性を考えて

並べる　使用度を考えて

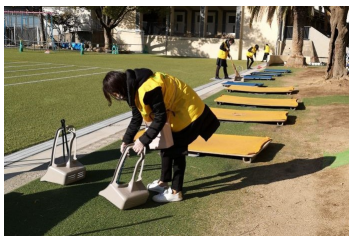
補充する　優先度を考えて

教材・教具の整理整頓

未来を担う学生とともに，

年間，100名を越える学生が，実習，インターンシップで来校します。学校業務体験として学んでいただき，その学びを，地域に広め，次世代に継承してほしいと願います。

保護者の協力も得て



年々，ボランティア協力をしてくださる保護者の方が増え，学校教育の充実に貢献してくださっています。

「清潔・安全」から「安心」へ

コロナ禍においても，環境整備の取組みは，その効果を如何なく発揮した。整っていることで，除菌や清掃も，円滑で効果的である。

草を抜き，樹木を剪定して生じた空間は，栽培活動の場となり，児童は花や野菜を育てることを楽しんでいる。

教員にとっても，環境づくりの活動は実に楽しいことであり，次の教育を創造するための新たな発想を得ることができた。